



東日本震災から10年 新型コロナ対策下での余震・震度6強

「こんな大変な、コロナ対策で大変な時に、地震が起ったら避難対策が大変」と心配していたら、東日本の大震災10年目を前に2月13日深夜、震度6強の地震が発生。現実と成りました。10年前から、地震時の原発情報が速く、多く提供されるようになりました。10年前は、福島原発の情報は遅かった様に思います。全ての原発が停止されてから10年間かけて、原発再稼働が目論まれ進められている様に見えます。しかし、自然からの「警告」「本当に大丈夫？」と再点検を要求された。と、思えます。

国民・市民の命と生活守るのが行政の基本 劣化激しい菅新政権、五輪・接待・夜クラブ

菅政権の劣化が激しい。前政権が長かったが、現政権の「タガ」の外れ様がいかにも速い。本紙20年11月4号で「GOTO ころころ」と題して、緊急事態宣言での「中央政府の優柔不断と知事の迅速判断」を話題にした。首相のテレビ前の自信無い顔が全てを物語っている。

NHK「ドキュランドRBG最強の85歳」を見た。アメリカ最高裁85歳の女性判事のドキュメントは女性とマイノリティーの権利獲得を闘った弁護士・判事の85歳の歴史を放送。これが世界標準。森前会長の女性蔑視発言を「歳の問題」とする事は出来ない。人事もだが、コロナ禍で五輪・パラリンピック開催が可能か、迅速な判断が求められている。

首相の子息が首相の部下を接待していた事実が、国会質問されて確認報じられた。如何、国民に説明するのだろうか？

自民党、夜のクラブでの「陳情対応」は個人単数ではなかったようだ。「かばっていた」「かばわれていた」と言うが「国民をだましていた」とは言わないのだろうか？

公明党も長い政権与党慣れの中で、劣化している。そして、議員辞任しても比例復活で議席数に減少は無いのは、したたかと思える。

コロナ対策も大変だが、渦中に五輪組織対策、毎日の国民の命と生活がかかる地震被害対応が発生した。この政権で大丈夫だろうか？ 優柔不断な中央政府とは別に、いよいよ、地方自治体の主体性が問われる時代。

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

コロナ禍と知事選

代理ではない「実務能力」が問われた

本紙20年11月4号「保守分裂選挙とコロナ対策」で述べている。新人江崎候補は元内閣府大臣官房審議監で「経済産業省や内閣府で新型コロナ対策を担ってきた知見を活かす」「新型コロナに伴う閉塞感を変えるために・・・」（岐阜新聞）とあるが、先日まで前政権から現政権までコロナ対策に関わっていたとするなら、緊急事態宣言・第一波から第三波までの「混乱の責任無し」とは言えない。江崎候補は「自分は専門家」と宣伝する事に対し「その知見は大丈夫か？」と問われていた事に気付いていたか？

一方、国の優柔不断に対し、東海三県知事会で指導性を発揮し緊急事態宣言の道筋を作った実務者、県内保障制度の実務者としての現職への有権者の評価が勝ったと言える。

代理選挙戦

県議会は半数ずつに分裂した。半数の県議会と現職の対立選挙となり、多くの目に新人候補と現職との選挙とは映らなかった。新人候補の後ろに、県民は県議会議長の顔を見ていたと思える。混乱は、県政自民クラブが新人だけでなく現職も二人を推薦した事。「弱気の風」では選挙は出来ない。更には、自民県議の長老が知事選前に「今回の知事選後に、次の県議会選挙には出ない」と宣言する事態。「新人のバックの影（長老の）を消したい」と思ったのか？「戦い直前に、勝負を投げた」と見て取れた。

結果は、大垣市で現職が勝る事に成った。岐阜市では22票で現職の勝利。自民党支持者だけではこれほど新人は得票しない。「本当に今回は心配した」と現職の同級生も言っていた。県会長者には皮肉な結果だろうか。

知名度

連合の役員経験者に選挙期間中に合う機会があった。その人が「岩崎をやっている人がけっこういる」と何べんも話しかけて来た。私が話し相手なので「岩崎元参議員」の名前が頭に浮かぶのか？最後まで「岩崎」で話は終わった。その人いわく「岩崎も知名度が無いで可哀想やわ・・・」が最後の会話。言うまでも無くこれは、「江崎候補」の事を言いたかったのだろう。激戦と混乱の選挙であった。

県会内の力関係に関心が及ぶ。以前、故船戸清岐阜市議会議員が、県議会の定数問題で話していた「岐阜市で10人（当時）も県会議員がいて、他の選挙区でなく何で岐阜市で定数を減らされるのか。発言力がなさ過ぎる。」と・・・。



いずれにしても、現在のコロナ対策を、第一義に努力しなければ成らない。